

2011年度 福祉・障害児教育研究所事業報告

菊池 信子

KIKUCHI Nobuko

平成23年度の福祉・障害児教育研究所の主な活動は以下のとおりである。

I 平成23年度の福祉・障害児教育研究所 プログラム

実施日：平成23年7月30日（土）神戸親和女子大学
標記のプログラムは、講演会とアクティビティの2つの内容で構成されるという新しい試みで実施されたものである。

1 講演会「元気な心と体づくり」

場 所：神戸親和女子大学 421教室

時 間：13時30分～14時40分

参加者：163名

講演者：高橋 明 氏（社会福祉法人 大阪市障害者福祉・スポーツ協会 大阪市障害者スポーツセンタースポーツ振興部 次長）

共 催：神戸市北区社会福祉協議会

進 行：寺本迪彦

開会挨拶：山添 正（神戸親和女子大学学長）

閉会挨拶：横田治郎（神戸市北区社会福祉協議会事務局長）

2 運動実践：14時～15時30分 6号館

学外参加者：25名

内 容：ダンスチーム：担当・小野教員、
指導学生・10名

ムーブメントチーム：担当・佐藤教員、
指導学生・10名

フィットネスチーム：担当・今西教員、
指導学生・3名

講演会として高橋明氏をお招きし、障害者とスポーツの観点から健康づくりと福祉のあり方について講演をいただいた。運動実践では、学生を主体として知的障害者を対象としたアクティビティを行ない、

参加者の好評を得た。

本プログラムは、神戸市北区社会福祉協議会と共催で開催され、後援として、神戸市、神戸市北区役所、神戸市社会福祉協議会、神戸市北区民生委員・児童委員協議会、こうべ市民福祉振興協会からの協力が得られた。

2 平成23年度講演会は、平成23年12月6日（火）

に本学421教室において開催された。

演 題：「神戸の被災の経験と子育て支援」

時 間：9時00分～10時30分

講演者：神戸真生塾・児童家庭支援センター長
難波美智子 氏

講演内容：

児童養護施設の歴史を踏まえ、設立120余年にわたる神戸真生塾の軌跡、とりわけ神戸大空襲下、児童を守った職員奮闘エピソード、阪神淡路大震災を機に世界のロータリークラブの支援で設置された神戸真生塾敷地内のロータリー子どもの家における、震災直後の緊急プログラムと、その後の「すこやかプログラム」、「心とからだのケアプログラム」、「子育て支援プログラム」による子ども支援、また、地域家庭支援センター「ロータリー子どもの家」として地域に根ざした子どもの支援に引き継がれて活動を展開していることが、事例を含め熱く語られた。

聴衆となった学生は、福祉臨床学科の1・2年生を中心に、3・4年生、他学科学生を含め82人、教員9人、職員1人、合わせて93人が、講演を聞く機会を得ることができた。

3 地域福祉活動の年間実績

学内の学習と併行して学外での体験学習をさせ、社会的視野を拡げ、行動力のある人材を養成することを狙った、社会性の習得、ボランティアの体験、社会貢献への動機づけを高め、福祉的な仕事で実践することができるようになることを目的として平成

23年度から学科として力を注ぎ取り組んでいる。

(1) 活動の準備

Tシャツの作成

活動する学生のアイデンティティを高めることを目的として、福祉臨床学科・地域福祉活動用のオリジナルTシャツを作成し、活動時にはそれを着用することとした。

(2) 1年生を対象とした福祉施設訪問

平成23年6月16日(木) 3限

担当教員：菊池、成清、小野、佐藤、今西

「健康運動実践」の授業の一環として施設訪問先で説明を受け、施設見学を行なった。

訪問先と活動内容：

1. むつみ会精神障害者作業所：(担当教員：小野)
学生は施設からの説明を聴き、利用者と触れ合った。
2. さくらホーム：(担当教員：今西) 学生は施設からの説明を聴き、見学を行なった。
3. 児童館：(担当教員：菊池) 学生は見学を行なった。
4. すずらんキッズ保育園：(担当教員：佐藤、成清) 学生は施設の見学を行なった。

(3) 2年生を対象とした福祉施設訪問

平成23年5月24日(火) 3限

担当教員：菊池、成清、小野、村上、佐藤、山口

「地域福祉論Ⅰ」の授業の一環として施設訪問を行ない、レクリエーションや利用者との触れ合いを行った。

1. むつみ会精神障害者作業所：(担当教員：小野、山口) 学生は施設からの説明を聴き、利用者と触れ合った。
2. さくらホーム：(担当教員：佐藤、村上) 学生は手遊び等の発表を行なった。
3. 児童館：(担当教員：菊池) 学生は見学を行なった。

(4) 3・4年生を対象とした活動

ゼミ単位で、ゼミ教員指導のもと個別に、あるいは上記プログラム活動等を通して実施された。

(5) 定期地域福祉活動

① スペシャルオリンピックス兵庫・陸上競技練習会

平成23年10月23日(日) 10時～12時

神戸親和女子大学グラウンド

指導：田中一行(スペシャルオリンピックス兵庫)

参加者：学外：40名、

学内：教員1名(今西)、学生：7名

知的障害者の陸上競技練習会に参加し、選手との交流を深めた。

本学におけるスペシャルオリンピックス兵庫の陸上競技チームの練習会に、福祉臨床学科の学生を参加させ、選手と触れ合う機会をつくった。学生のコミュニケーション能力の改善を図ると共に、実際の障害者スポーツの指導現場を体験させた。

この練習会では、本学のスペシャルオリンピックス兵庫への貢献が評価され、スペシャルオリンピックス兵庫より本学へ感謝状が授与された。

② 定期地域福祉活動2

平成23年11月6日～7日

参加者：学外：6日・6名、7日・4名(計10名)

学内：6日・教員4名(菊池、佐藤、今西)、
学生・2名

7日・教員4名(菊池、村上、佐藤、
美藤、今西)、学生1名

「親和の学園祭を楽しんでもらおう」と題し、本学園祭に6日には知的障害のある方々を、7日には老人ホームの方々を招き、学生と触れ合う機会をつくった。本学福祉臨床学科の学生を対象とし、コミュニケーション能力の改善を図ると共に、実際に障害者、高齢者との関わり方を実践的に体験させた。

③ 定期地域福祉活動3

平成23年12月3日(土) 神戸親和女子大学内

参加者：学外：7名

学内：教員：3名(菊池、佐藤、今西)、
学生13名(計16名)

「クリスマス会でケーキを作ろう」と題し、本学調理室に菓子作りの仕事をしている知的障害者の方々をお呼びして、学生と一緒にシフォンケーキづくりを行なった。ケーキを作成した後、4号館にて参加者と一堂に会してクリスマス会を開催した。

④ 定期地域福祉活動4

平成23年3月19日(月)、福祉臨床学科の学生が地域福祉活動として、地域のふれあい喫茶に参加した。このふれあい喫茶は、神戸市社会福祉協議会北

在宅福祉センターが、本学内にある子育て支援センター「すくすく」で、月1回地域の方々への交流の機会づくりに昨年秋から始めたものである。2月のふれあい喫茶に下見を兼ねて学生・教員が参加し、その後学生から提供できるアイデアについて数回検討会をもった。

学生のアイデアを取り入れ、今回は学生やスタッフ・教員が、予め喫茶活動を行う地域の方々と学生がスタッフ用名札と、お茶とともにお出しするお菓子のお皿をフェルトで作し、喫茶の場で話題づくりに工夫を加える試みを行った。喫茶に訪れた地域の方は19組、地域の喫茶活動をされた方、主催側に当日参加学生4人が加わり、門からの案内、ピアノの生演奏、名札や菓子皿づくりの方法について話題も盛りだくさんで盛会に終えることができた。総勢41人の参加による活動となり、教員（今西・菊池）にとっても今後の学生の活動への動機づけや運営について考えるよい機会となった。

まとめ

平成23年度の福祉・障害児教育研究所の主な活動は、以上のとおり、学生への参加の動機づけを高め、将来に活用できるスキルを身につけるとともに地域との関わりを大切にし、地域性、継続性、実践への動機づけを高め、研究所としても、順調に実績を伸ばしている。